

ライフサポート：はた

2018年度「幡多労福協」 「幡多ライフ」総会のご報告

N050日：2018.6.11

四万十市中村大橋通7丁目1-24
連合高知西地協内 TEL:34-9191
発行責任者：事務局 伊達幸雄

色々な組織やクラブに参加している方も多いと思いますが、何か面白い話や、イベントの広報などがあればお知らせ下さい。皆さんからの、投稿をお待ちしています。

<6月2日(土) 14:00~> 場所：四万十市社会福祉センター

2018年度の幡多地区労福協と幡多ライフサポートセンター合同の総会が、12名の現職の皆さんを含め、62名の参加により上記福祉センターで行われました。



総会に先立ち、14:00から約1時間の講演を行い、15:00から幡多労福協総会・幡多ライフ総会と約3時間を要し、参加者には少し長丁場の会となりました。

幡多ライフが県労福協内の組織であるため、幡多ライフとしての予算は持っていないこと、幡多労福協と幡多ライフは役員も重複しており、共同での事業推進も多くあることなどの説明と共に、両総会の議案については、2017年度の活動報告・決算、2018年度の活動方針・予算など、原案のとおり満場一致で承認されました。

議案書を確認したい方は、連合高知西地協事務局にありますので、来ていただければお渡しいたします。

<総会での講演内容>

演題：「土佐一条家のこぼれ話」

講師：<楠本正躬>



楠本さんは、「吉良川文張」というペンネームを持つ郷土史愛好家で、本も発行されている方で以下のような内容でした。

歴史の真実は何々にして権力者によって隠されるものである。これは識字率の高い「支配する側の者」から書かれたものが多いからであり、本質を知るためには「被害者側」から書かれた資料を参考にすると見えてくる。

1574年に長曾我部元親が土佐を統一するまでは、一条兼定(中村御所当主)や本山茂辰(本山城主)、安芸国虎(安芸城主)など幡多郡78城、高岡郡57城など各地に334もの城が存在したとされている。

一条兼定は、1573年に長曾我部元親の策謀により家臣たちに追放され、家督を子供の内政に譲った。そして、1575年に再起をかけて渡川合戦を仕掛けたが敗れ滅亡した。

これらについては、^{ぎょうしゅう}宍州書状(一条内基から元親への手紙)や^{ただもと}兼俊書状(渡川合戦の戦況を境地の一条内基に3回報告)などから推察できる。

など、かなりディープな内容で、おぼろげに知っている名前が1~2名とチョッと難解な講演となりました。



第12回ゴルフコンペ開催される

真っ青な空に快音と共に、白球が吸い込まれ飛んでゆく。その想いを共有し上記チャリティーゴルフコンペは、6月4日(月)120名の参加のもと土佐ユートピアCCで開催されました。



今年は梅雨入りが例年より早くなり天候で実行委員をヤキモキさせたが、みんなの願いが通じたのか絶好のゴルフ日和となりました。

このチャリティーコンペも回を重ねるたびに参加者も増え、各組のスタート時間に差が出ることから、今回は開会式を行わず8時40分スタートに変更。

始球式を取り入れ、アウトコースは横田会長が、インコースは大橋幹事のショットで熱戦の幕は切られました。競技では快調にナイスショットを連発する人、はたまた白球が青空に一直線と思いきや山の中へ消えてゆく人など様々。

季節はまさに新緑と芽吹いたグリーンの美しさの中、一打に一喜一憂し、皆が気持ち良い(?)汗を流しラウンドは無事終了しました。

成績が集計される時間も含め早速閉会式に入り、山本源次幹事の司会により、主催者を代表して横田幡多ライフ会長、そして小野全労済支所長より挨拶があり、続いて今回のチャリティー先である土佐清水市社会福祉協議会の中澤会長に直接チャリティー金が贈呈され、会長より謝辞が述べられました。



引き続きお待ちかねの表彰式に入り、商品の授与には全労済中村支所の有田愛さんも駆けつけ、昨年同様家族の方が喜びそうな数多くの賞に皆さんの笑顔がはじけました。最後に、次回の第13回ゴルフコンペも多くの仲間を誘い合って成功させることを共に誓い合い終了しました。

今回も協賛して頂いた「四国労働金庫中村支店」「連合高知西地域協議会」「幡多地区労働者福祉協議会」「中村クリニック」に対しまして、心より感謝申し上げます。

幡多地区労福協
会長 今倉傳男